

## 高齢者総合ケアセンターこぶし園の 地域包括ケアシステム構築の実践に学ぶ

我が国は、2025年の超高齢社会に対応するために、医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスの一体的提供をめざした地域包括ケアシステムの構築を推し進めようとしている。そのような中で、社会福祉法人長岡福祉協会の高齢者総合ケアセンターこぶし園では、2000年の介護保険創設以前より、ノーマライゼーションやAging in place（地域居住）の考え方に基づき、施設設置化と共に、総合在宅支援体制、小規模多機能ホーム、高齢者の住まいづくり等に積極的に取り組み、全国を代表する地域包括ケアモデルを構築してきた。本視察研修ツアーでは、その地域包括ケアシステム構築のノウハウを現地で学ぶべく、全国各地より多数の医療機関・介護施設の方々にご参加いただいた。

午前中は、高齢者総合ケアセンターこぶし園（母体）で、高齢者総合ケアセンターこぶし園の総合施設長である小山剛氏が「Aging in place（地域居住）実現のための地域包括ケアシステム構築の取り組みの実践について講演。2012年介護報酬改定の影響、新サービスである「定期巡回型随時訪問サービス」における在宅支援、社会福祉法人の使命、また職員の教育システムについて具体的な解説があった。また、こぶし園（母体）の特色に当初入所していた10名の利用者の7割を長岡市の中心部に展開している「サポートセンター」と呼ばれる各事業所のサテライト特養に転居しており、来年に



は残り3割の利用者を転居するという事で、まさに脱施設化・地域移行の実現まで到目前にきているという事である。

午後からは、実際にそのサポートセンター（4か所）を見学。「サポートセンター川崎」、「サポートセンター千手」、「サポートセンター浜田屋」、「サポートセンターしなの」の順で見学した。見学した全ての事業所に高齢者向けの賃貸住宅とサ

テライト特養、園、小規模多機能型住宅介護等が併設されており、24時間365日体制で従来の施設と同様のサービスを住み慣れた地域の中で提供できるようになっている。また、その他にも「キッズルーム」、「地域交流スペース」、「バーカウンター」が設けられており、利用者やその家族だけでなく地域住民も気軽に足を運べる環境づくりに徹しているのがよく理解できる。

見学終了後の全体質疑では、参加者より各事業所の経営面に関する質問から運営面に関する質問まで多数の質問が寄せられ、同法人の今後の事業構想に興味を示す声を多数いただいた。次回は、7月11日(水)開催を予定しているが、まだ見学された事のない方は是非長岡市まで足をお運びいただきたい。

(文) 田中聡一郎



サポートセンター千手



サポートセンター川崎



サポートセンターしなの



サポートセンター浜田屋



バーカウンター



バーカウンター

視察研修ツアーのご案内  
**平成24年7月11日(水)**  
**地域包括ケア実践**  
**視察研修ツアー**  
 高齢者総合ケアセンターこぶし園の  
 地域包括ケアシステム構築の実践に学ぶ  
 詳しい情報はHMSホームページをご覧ください。



見学風景